

平成 22 年 5 月 6 日現在

研究種目： 若手研究（B）  
 研究期間： 2007～2009  
 課題番号： 19730541  
 研究課題名（和文）社会科授業改善ストラテジーの研究

研究課題名（英文） A Strategy for the Improvement of Social Studies Class

## 研究代表者

草原 和博（KUSAHARA KAZUHIRO）  
 広島大学・大学院教育学研究科・准教授  
 研究者番号：40294269

研究成果の概要（和文）：本研究は、社会科教師のつまずきに応じた授業改善のストラテジーを解明することを目的としている。指導のつまずきには、教育目標の喪失・あいまい化、教育内容の核心の分散、子どもの日常知や生活経験に根ざさない教材の設定、教育内容の探求と子どもの能動的な活動をとまなわぬ教授学習活動の選択、そして、連続的な探究活動を支援しない授業過程、いずれかの問題が考えられる。本研究では、これらの課題の解決に役立つ（紙・映像媒体の）学習材を開発するとともに、これらの学習材が満たすべき条件を仮説的に定式化した。実験授業とアンケート調査から得られたデータにもとづいて、開発した学習材は教師の授業改善と子どもの社会認識の深化に効果のあることが検証された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the strategies of reflective improvement of the social studies class based on the teacher's failures or missteps. The causes of them are generally classified into the following types; the lost or unclearness of the aims, scattered concepts in the teaching contents, the materials not being connected with the student's conception and experiences, and the teaching methods/process which don't support the understanding as well as the successive inquiry. In this study, the learning resources for the teacher and student who are poor at the social studies, are developed as solution, in addition, the conditions which are useful for the teacher's reflection and student's understanding are generalized as hypothesis. The data collected from the experimental class and the questionnaires vilify that hypothesis.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	0	1,200,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	510,000	3,410,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 教育学・教科教育学

キーワード： 社会科教育，授業改善，ストラテジー，学習材，教師教育

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 今日、教員の実践力向上が叫ばれている。実践力の核となるのは、なによりも「分かる授業」ができる力量だろう。事実、教育現場では、授業力向上に向けて様々な取組が行われている。大学の研究者は、そのような「分かる授業」の実現にどのような形で関わってゆけばいいのだろうか。これまで広く行われてきたのは、以下の2パターンである。

### ① 運動・変革型

より良き授業の条件に関わる高邁な教育論を授け、教師の実践スタイルを抜本的に変革してゆこうとするものである。指導者として学校内部に深く入り込んだり、特定の教師と連携関係を築いたりすることで、カリキュラムづくり・授業づくりを全面的に支援しようとするパターン。

### ② 助言・サポート型

より良き授業の展開のために、教師が必要とするサポートを、相手側のねらいや実践に即して提供しようとするものである。資料・教材は求めに応じて提供し、ねらいを実現するための手立てを助言し、カリキュラムづくり・授業づくりを後方から支援しようとするパターン。

(2) いずれのパターンも学校現場に一定のコミットをしている点では共通する。しかし前者は、研究と実践が過度に密着し、問題状況を変革する「教育運動」に転化してはいないか。一方で後者は、研究と実践の距離が余りに遠く、現場任せの「責任放棄」に陥っていないか。

(3) 今、問われているのは、両者の中間項である。大学の研究と学校現場の実践が適度な相互関係を保ちつつ、教師が日々直面しているつまづきや課題を対象化し、それを取り除き、「分かる授業」を実現してゆく条件・方策を解明することだろう。

## 2. 研究の目的

上の研究的要請を踏まえ、以下2点を研究目的とする。

(1) 社会科教師の主体的な授業改善を支援する理論と方法を解明すること。

(2) (1)の理論と方法を具体化するストラテジーとサポート素材を開発すること。

## 3. 研究の方法

上の目的を達成するために、以下3点の方法をとった。

(1) 教師の授業改善に資するであろう学習材を仮説的に構築・開発し、その有効性を、授業実践やアンケート調査を通して実証的に明らかにすることである。

(2) 教師の授業改善のプロセスを、優れた実践家の取組の分析を通して、個別具体的に明らかにすることである。

(3) 上の(1)(2)の成果を帰納的に整理して、社会科授業改善のストラテジーを一般化してゆくことである。

## 4. 研究成果

(1) 第1の方法論にもとづいて、3点の学習材を開発し、その有効性を検証した。

### ① 紙媒体の学習ガイドブックの開発

#### - 第1期 「ヨーロッパ」の開発:

社会科の教員は、しばしば事実の羅列的な教授に終始し、子どもの知的好奇心を喚起しにくい授業に陥りやすい。そこで本課題を解決するために、(a)事実を素材にして概念を探究させる授業づくり、(b)概念を活用して事実を説明させる授業づくり、を支援する学習ガイドブックを開発した。

具体的には、地理的分野の「ヨーロッパ」を事例に7時間相当分の学習ガイドブックを作成し、それを活用した実験授業(佐賀大学付属中学校)を行った。あわせて、事実羅列型授業の改善のために、学習ガイドブックがそなえるべき内容構成と効果的な活用法について検討した。本成果は、全国社会科教育学会第56回全国研究大会において、「学習材としての社会科教科書の開発と有効性の検証」と題して報告した。

#### - 第2期 「アフリカ」の開発:

社会科教師は、しばしば教科指導の目標を見失い、教育内容の核心が分散してしなうことがある。そこで本課題を解決するために、教師に目標達成にむけた合理的な内容構成と指導法を示唆した学習ガイドブックを開発した。

具体的には、地理的分野の「アフリカ」を事例に、学習対象について(a)想定される到達目標と学習課題、(b)学習課題の追求を支える社会諸科学の概念・解釈、(c)概念・解釈を引きだす一次資料、(d)一次資料の読解や説明・論評をうながす教授学習活動例、これらを複合的に組み合わせた学習ガイドブックを開発した。あわせて、本学習材が教師の授業開発と改善にどの程度効果を発揮しうるかを明らかにするために、学部学生(東京学芸大学・立命館大学・広島大学)と現職教員の計400名にアンケート調査を実施した。調査の結果、ほぼ有効性が検証された。ただし、上の項目のどこに価値を見出すかは、教職の経験度や問題関心によって異なった。本成果は、社会系教科教育学会第20回研究発表大会において、「地理学習材開発の開発・活用研究(3)―授業計画・授業改善への効果―」と題して報告した。

- 第3期「交通ネットワーク」の開発：  
社会科教師は、しばしば教育内容の教授を目的化し、指導の現代的な意味や意義付けを曖昧にしていることが少なくない。そこで本課題を解決するために、「今日的な社会的課題」に応える方向で授業改善することを支援する学習ガイドブックを開発した。

学習ガイドブックの構成は、第2期までに確立された基本原則を踏襲した。ただし今回は、とくに社会的に要請されている「法教育」や「シティズンシップ育成」の観点を意図的に「交通ネットワーク」の単元に組み込み、開発のすることで、上のねらいを達成しようとした。本成果は、社会系教科教育学会第21回研究発表大会において、「社会科地理における法教育の位置づけー地理教育こそできる、地理教育にもできることを活かしてー」と題して報告した。

## ② デジタル媒体の映像教材の開発

- 第1期 映像教材の開発：

社会科の教員は、しばしば過度に言語に依存した指導（語り）に終始し、子どもの納得を伴わない授業に陥りやすい。そこで本課題を解決するために、(a)概念を身近で具体的な事実に適用する授業づくり、(b)リアルな間接体験を通じて事実を理解させる授業づくりを支援する教材を開発した。

具体的には、小学校段階を中心に「特産品って何だろう」「裁判って何だろう」「巡礼って何だろう」「新聞の役割」「橋ができて変わったこと」「藍づくりの始まり」の計6本の映像教材を開発した。あわせて、言語偏重型授業の改善のために、映像教材がそなえるべき内容構成と効果的な活用法について検討した。

- 第2期 映像教材の活用：

映像教材を実際に学校現場で活用することで、映像教材の有効性を検証するとともに、授業改善に向けて効果的に活用するための方法論を明らかにしようとした。

開発した映像教材は、小学校の地域学習の授業改善に以下の3点で有効だった。(a)校区内で施設や事物を直接見学することのできないとき、副読本に代わる間接経験の場を提供する学習材として。(b)人物の努力・くふうの理解に終始しやすいとき、行為の意味理解に代わる社会の見方を提供する学習材として。(c)子どもが受動的な理解にとどまっているとき、科学的な概念の探求活動を支援する学習材として。

これらの効果を引き出す指導法とワークシートを、実験授業の結果をふまえて提案した。実験授業は、計3つの小学校と1つの中学校で行い、一定の成果を得た。本研究の成果は、「ローカル・カリキュラムセンター方式による教員の力量形成ー大学院「教育実践研究」の改善に向けたパイロット研究ー『日

本教育大学協会研究年報』第27集、において報告した。

(2) 第2の方法論にもとづいて、教師の授業改善のプロセスを解明した。

具体的には、中本和彦の実践「インドーマクドナルドと農民の自殺ー」に注目。氏の授業づくりを分析することで、(a)教育内容と教材を分けた文献収集と内容づくり、(b)大小の探求スパンを組み合わせた発問づくり、(c)子どもの日常知を踏み台にして、それを修正・成長させていく学習過程の組織化、それぞれのストラテジーを抽出することができた。

本研究の成果は、社会系教科教育学会編『社会系教科教育研究のアプローチー授業実践のフロムとフォーー』学事出版、2010年の第2部7(3) 授業分析に基づく理論化「単元「インドーマクドナルドと農民の自殺ーが示唆する教材研究の方法論」、において報告した。

(3) 第3の方法論にもとづいて、社会科授業改善のストラテジーを一般化していった。

3カ年の事例研究の積み重ねを通して明らかになったのは、教師の自立的な授業開発を支援する学習材の有効性である。(a)何を教えるか：contents knowledge, (b)どのように教えるか：pedagogical knowledge, (c)どういうねらいをもって、子どものどのような実態を踏まえて、何をどのように教えるといいか：pedagogical contents knowledge。

社会科の授業改善に求められる知識とは、(a)～(c)の統合体に他ならない。優れた実践家・優れた教師は、これらの知識を自明のこと＝暗黙知としてたずさえ、授業をつくり、改善していた。

社会科の指導を必ずしも得意としない教師には、これらの暗黙知を言語化し、授業づくりに向けた多様なストラテジーを示唆するのが効果的である。各教師が自ら直面する問題意識や問題状況にもとづいて、教育目標・教育内容・教育方法を精緻化したり修正するための合理的な対応・解決策を選ぶ、そして子どもの社会認識や学習意欲を高めていくことが、授業改善につながる。そのためにも、問題解決に役立つ「多様なストラテジー」とその「選び方」を提案した学習材の開発が欠かせない。本研究では、その学習材の具体像を示すことができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

① 草原和博・麻生多聞・原田昌博・町田哲「ローカル・カリキュラムセンター方式に

よる教員の力量形成—大学院「教育実践研究」の改善に向けたパイロット研究—『日本教育大学協会研究年報』（日本教育大学協会年報編集委員会編）第27集，pp. 359-372，2009年3月（査読有り）。

- ② 草原和博「地理教育改革のオルタナティブ—教科構造の原理的考察を踏まえて—」『社会系教科教育学研究』（社会系教科教育学会）第20号，pp. 21-30，2008年12月（査読有り）。
- ③ 草原和博「地理教育の公民教育化—地域を単位にした総合的な社会研究—」『社会科研究』（全国社会科教育学会）第66号，pp. 11-20，2007年3月（査読有り）。

〔学会発表〕（計7件）

- ① 草原和博「社会科地理における法教育の位置づけ—地理教育こそできる，地理教育にもできることを活かして—」社会系教科教育学会 第21回研究発表大会，課題研究Ⅱ：法教育の教材化（於：兵庫教育大学），2010年2月21日。
- ② 草原和博・中本和彦・石川照子・田中伸「地理学習材開発の開発・活用研究（3）—授業計画・授業改善への効果—」社会系教科教育学会 第20回研究発表大会，自由研究発表第9分科会（於：兵庫教育大学），2009年2月21日。
- ③ 草原和博「米国社会科における市民性育成の特質—統合（integration）の視点から—」科研成果報告会「アメリカ社会科におけるシティズンシップ教育の現状と課題」代表者：唐木清志（於：筑波大学学校教育部），2009年1月10日。
- ④ 草原和博「教育の専門職養成のためのコアカリキュラム—地域との連携を通して院生の授業力向上をはかる大学院改革—」平成20年度日本教育大学協会四国地区研究集会，自由研究発表（於：愛媛大学），2008年12月4日。
- ⑤ 草原和博「学習材としての社会科教科書の開発と有効性の検証—中学校地理的分野の場合—」平成20年度教科書セミナー，学習材としての社会科教科書の機能とその活用に関する調査研究（於：（財）教科書研究センター），2008年12月1日。
- ⑥ 草原和博「公民教育と地理歴史教育の関係構築の論理—「政治的見方・考え方」を育成する3つのアプローチを例に—」日本公民教育学会第19回全国研究大会，課題研究Ⅱ：公民教育と地理・歴史との新たな可能性（於：大分大学），2008年6月20日。
- ⑦ 岩田一彦・草原和博・大杉昭英・谷田部玲生・原田智仁・二井正浩・星村平和「学習材としての社会科教科書の開発と有効性の検証—中学校地理的分野の場合—」全国社会科教育学会第56回全国研究大会・

社会系教科教育学会第19回研究発表大会合同研究大会，自由研究発表第5分科会（於：兵庫教育大学），2007年10月27日。

〔図書〕（計3件）

- ① 社会系教科教育学会編『社会系教科教育研究のアプローチ～授業実践のフロムとフォー～』学事出版，pp. 109-111，2010年2月。  
分担執筆：第2部7（3），草原和博「単元「インドーマクドナルドと農民の自殺—」が示唆する教材研究の方法論」。
- ② 日本教材文化研究財団編『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』日本教材文化研究財団，pp. 24-39，2008年8月。  
分担執筆：第3章，草原和博「事実的，理論的思考力・判断力を問う授業とテスト—「エネルギー資源の分布と消費」を事例に—」。
- ③ 社会認識教育実践学研究会編著『社会認識教育実践学の構築』東京書籍，pp. 243-245，2008年2月。  
分担執筆：第5章，草原和博「社会科学教育における「社会認識の空間的・時系列的位置づけ論」の位置づけ」。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

草原 和博 (KUSAHARA KAZUHIRO)  
広島大学・大学院教育学研究科・准教授  
研究者番号：40294269

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：